

ボランティア活動って何だろう

11月8日は二十四節気の一つ立冬です。実際に朝晩の寒さも増しているよいよ冬の訪れといったところですね。冬支度とともに、昼夜の寒暖差に体調を崩しがちな季節です。栄養バランスや運動なども意識し、体調管理にも努めていきましょう。

さて、今月号8ページで紹介しましたが11月23日(木)・12月8日(金)まで、市社会福祉協議会および市ボランティア連絡協議会と市が連携し「ボランティアキャンペーン 匝瑳2023」を実施します。改めてボランティアについて調べてみますと、ボランティアの語源は、voluntas(意志)というラテン語からきているといわれています。文部科学省の調べでは、ボランティア活動に参加した直接的なきっかけは自分の自発的な意志と答えた人が、回答の約半数を占めておりました。

何かに興味を持ち、その実情や現状を知ったことがきっかけであったり、自分自身が、何か不自由な体験をして、そこから誰かを助けたいと思ったなど、ボランティアを始めたいと思うきっかけは人それぞれ違います。地域や社会をより良くしていく意思をもった行動は、さまざまな体験や知識、技術を得ることができます。また、いろいろな人たちと知り合ったり、協力し合う



ことは、人とのつながりを広げるなど、活動する自分自身も豊かにしてくれる力を持っています。さらに、すでにある仕組みや発想にとらわれず、何が必要とされるかを考えて実施することで、新しいサービスや社会の仕組みを生み出すことにつながることもあり、創造的な活動でもあります。市内では数多くの地域活動団体やボランティアグループが活発に活動しています。25日(土)に開催される集中イベントでは、ボランティア活動報告なども行われますので、ボランティア活動について知ることや考えるきっかけとしてみてはいかがでしょうか。

10月末から次年度の予算編成がいよいよ本格的にスタートしました。9月議会決算審査でのご意見や市民の皆さまからいただいた声を十分検討いたしました「6つのまちづくりビジョン」と「7つの重点施策」の推進に取り組み、「今住む人が幸せに暮らし、若者や子どもたちが住み続ける地域づくり」の早期実現に向けまい進していきます。

匝瑳市長 宮内康幸

匝瑳探訪

155年目の法要

飯倉を歩く

10月6日、中台・脱走塚(水戸藩士の墓)と今泉・水戸浪士の墓(切られ様・旧長泉寺跡)で水戸藩士の慰霊法要が行われました。水戸市から水戸殉難者恩光碑保存会や市関係者、匝瑳市からも市長、市議会議長や中台区長、龍性院関係者などが参加しました。

1868(明治元)年10月6日(新暦では11月19日)、水戸藩諸生党市川勢と追討軍・天狗党の戦いが中台周辺でありました。この戦いは当時から「松山戦争」と呼ばれていました。調査を進めると、「水戸藩国難事件殉難者名簿」などにはこの戦いで死者が「八日市場にて



飯倉にある水戸藩士3人の埋葬地

戦死」と記載され、戦いの場が当時の中台村であったこと、脱走塚の供養を同地区が長年継続して行っていることなどで、140年を経過したところから名称を「八日市場・中台の戦い」としました。

諸生党市川勢はこの地での戦いが最後となったため、脱走塚が「諸生党終焉の地」とされています。『市川勢の軌跡』(市村眞一著)によると、1868年3月、水戸を脱走した市川勢は北陸、会津を転戦した後、水戸に戻ったものの戦況が不利なため、銚子を経て八日市場にたどり着きました。その道のりは徒歩での約1000キロの行軍で、八日市場・福善寺到着時には80人ほどだったといえます。

中台周辺で30人、野手周辺で15人ほどが戦死し、戦いの後、周辺の村々へ逃れた30人余りの中にも他の地で亡くなった者もあったとされます。

50年余りに及ぶ調査を経て、まだ紹介していない場所があります。豊栄小学校東隣の寺跡に市川勢の戦死者3人が埋葬されていると語り継がれる場所です。中台から富岡を通り、飯倉で力尽きたのでしょうか。

最近、八街市内にも水戸藩士を埋葬し、墓石が建てられた「脱走塚」と呼ばれる場所があることを知りました。

155年目の慰霊法要に参列し、かつて共に活動した先輩の遺志を引き継ぎ、調査を続けたいと強く感じました。(市文化財審議会委員・依知川雅一)

問 秘書課 広報広聴班 ☎73・0080

文芸コーナー

力作募集中

宛先：匝瑳市秘書課広報広聴班
〒289-1219 匝瑳市八日市場八793番地2
☎73・0080 FAX72・1114

短歌

依知川 雅一 推薦

お隣さん、長い竿手に柿を取る

我が家にも秋筈あふれ出る

高橋百合子

朝日受け線路のそばの彼岸花

ひとときわ赤く空を見上げる

伊藤 和江

初秋に白く清楚な芙蓉咲き

八重の花びら狭庭にあふれ

鈴木 知子

朝露のきらめく数多の葉の上に

乾きを潤し草花の糧

古谷由美子

黒色の犬と杖つきじいさんが

信号待ちをこれも平和かな

内藤喜代美

今朝も掃くきのうも掃いた柿落葉

夏の猛暑は秋をも狂わす

鈴木 和子

何もかもまかり通ったコ罗纳禍を

過ぎてとまどうよそゆきの礼

林 暁男

川口 城司 推薦

飯高の長坂に自転車押し上げる

小柄女性は背を少し曲げ

石田 治

口のあき赤紫の無花果を

ふたつに割りてプチプチ食す

伊橋 良子

俳句

椿 和枝 推薦

風わたる八万石の刈田かな

秋うらら地球が丸く見える丘

那須 恒雄

紫苑晴白寿の祝賜りぬ

彼岸花火を消すごとく刈り進む

山崎智恵子

全きを横たへてゐる秋筑波

残照に花弁寄り合ふ芙蓉かな

光瀬甲江子

小鳥来る髪型を変へヘアサロン

富布早く熟れろよ孫が待つ

岩井 やす

新米の香り運ぶや卓球権

大川 宣子

親の財汗水流し子や孫に

椎名 晴江

災害で大事な水が命とり

佐々木之子

紙芝居水飴なめて見た昭和

須貝 玉枝

夫婦間水と油で金婚譜

野仲 妙子

熱中症水水水で生き延びる

野田 眞こと

庭の木が水がほしいとサイン出す

野仲てつ幹

健康は一杯の水で守ります

伊橋 裕子

健康は一杯の水で守ります

渡部すい子

健康は一杯の水で守ります

熱田眞こと

健康は一杯の水で守ります

野仲てつ幹

健康は一杯の水で守ります

伊橋 裕子

健康は一杯の水で守ります

野仲てつ幹

健康は一杯の水で守ります

伊橋 裕子

川柳

勝又 康之 推薦

親の財汗水流し子や孫に

土屋 秀雄

災害で大事な水が命とり

佐久間美智子

紙芝居水飴なめて見た昭和

江波戸京子

夫婦間水と油で金婚譜

鶴澤 澄子

熱中症水水水で生き延びる

鈴木千恵子

庭の木が水がほしいとサイン出す

中村 九藏

健康は一杯の水で守ります

渡部すい子

健康は一杯の水で守ります

熱田眞こと

健康は一杯の水で守ります

野仲てつ幹

健康は一杯の水で守ります

伊橋 裕子



移動可能な小さな家「タイニーハウス」製作を体験しました

地域おこし協力隊員、北條将徳さんがSNSで発信した匝瑳市体験をピックアップしてお知らせします。

隊員マサの // とうさ発見発信

No.11

1年間で感じた匝瑳の魅力

3年の協力隊任期のうち、あっという間に最初の1年が終わりました。初めての土地で活動ができたのは、皆さまの手助けのおかげです。この場を借りて、感謝の言葉を申し上げます。この1年の総括として、匝瑳の魅力を改めて言葉にしたいと思います。

まず豊かな自然環境。広大な海と空、生物多様性を誇る里山という多様な環境がコンパクトにまとまっており、魅力的です。次に利便性。市の中央を通

る国道から15分も車で走れば、ほとんどの生活ニーズが満たされること。都内へのアクセスも容易です。そして、文化と人のパワー。代々続くお祭りや藤箕などの文化財は、各所から人を引きつける輝きがあります。匝瑳に暮らし続ける人、特に女性の明るさには、大きな潜在力を感じています。

魅力ある土地と文化を後世に残すためにも、人口減少は喫緊の課題です。その解決には、今いる市民や移住を検討する人にとって「選ばれる街」になる決意と対策が必要です。協力隊とし

て、匝瑳が持つ魅力や資産をPRすることで、ふるさと納税や移住者を増やしたいと考えています。

ブックカフェ&リユース店舗を作ってから、お試し移住用に「タイニーハウス(小さな家)」の製作を検討します。